

発刊にあたって

このたび福井県文書館資料叢書の第三巻として『若狭国小浜町人の珍事等書留日記』を発刊することとなりました。第一巻および第二巻（既刊）では、江戸時代中ごろの越前国幕府領大庄屋の日記を取り上げましたが、これに続く本巻は、江戸時代後期の若狭国小浜の米商人、井筒屋勘右衛門の日記を翻刻しています。

井筒屋は、小浜藩の米手形会所の御用達を務めた有力町人のひとりであり、米手形会所は、米手形（藩札）と銀との両替を独占的に取り扱っていました。幕末から明治維新にむかう激動の時代に、彼は米穀商として米価・穀物価等の変動を丹念に記録し、重立った町人として小浜城下での天保の大飢饉のようす、幕府や藩からの御触書（法令）、藩の財政改革にかかわる「仕法」など知りえた情報を的確に記しています。

とくに安政期（一八五四～六〇年）以降になると、洪水や地震、伝染病の流行などの「珍事」を淡々と書きとめようとする日記の内容にも変化があらわれてきます。たとえば、世界的大流行の一端をなすコレラの蔓延（一八五九年）、異国船の到来に備えた城下での台場築造・改修と大規模な訓練、開港場選定のために日本海側の港湾を測量していた英国軍艦の入津（六七七年）、明治新政府軍の北陸道鎮撫使の来浜（六八年）など、一地方の町人の記録にも世界史的な連関がうかがいあがってきます。飢饉時に米販売や施粥の運営を支えた井筒屋の視線は、不安定な時代にかえって賑わいを増すかにみえる寺社の祭礼や開帳、能、狂言、浄瑠璃、相撲などの諸興行の盛衰

にも注がれ、地域文化をうかがい知ることができ、厚みのある記述となっています。

さて、このような当館の資料叢書は、福井県の歴史に関する重要な資料を活字化し刊行するもので、くずし字で書かれた膨大な資料の内容を直接原本にあたることなく詳細に知ることができ、そして現在ではくずし字を活字化することは、同時に資料をコンピュータで利用できるデータに変えることでもあります。近年、文学や社会科学・歴史学などの分野で重要な文献や資料がインターネット上に提供され、これによって研究者のみならず一般の誰もが資料を手軽に利用でき、関心のある情報を探し出すことができるようになりました。

本書と当館ウェブサイトに掲載するそのデジタル版が、福井県にかかわる文化的情報資源をより豊かにし、県内・県外からそして世界中から資料が活用・共有されることで、広く福井県にかかわる研究を進めるものとなることを願っています。

平成二十一年三月

福井県文書館長 岩本文男